



借 紙
衣 裳 塚
井 市 撰

中村俊定文庫
文庫 18
332





今
賞
塚





序詞

宝曆子此こころとて、近年の志願をもちて
芭蕉翁の廟を嘗む所、新城の南
赤岡禪刹に境内より一株の松あり
老樹に叶おのほり、わづらひて垣を原
をた音を、深く使より、碑、兩より
松竹や友を、名譽を、月とありと、

高橋を、あつとぬ、世の、世の、世の、
や、あつとぬ、あつとぬ、あつとぬ、
わづらひて、わづらひて、わづらひて、
細竹も、松竹、わづらひて、
報の一章、わづらひて、わづらひて、
世の、世の、世の、世の、世の、
記念、わづらひて、今や、松竹、
石碑、わづらひて、世の、世の、

仰ぐ法小に通士北佳句を求るも
却て廿九と云はる余章これと
集く小冊と自序して在る等
と題するものあり

一樹庵竹市



長秋の并序

むかしより秋語ありと能く
芭蕉翁も好むと云ふは東林寺に
ありし頃の碑の銘を削りて
道に之祖の七字をあらとて謎文の
一碑に法物を記すにえりしを
法化天下と云くはとて是に
ありしと云ふるは一樹の法
ありしと云ふるは一樹の法
ありしと云ふるは一樹の法

越前越中今や越後一塔を
遠き世に傳ふに神す月中の二百
さうも芭蕉を北法會といふ塔に
結縁のこゝめらるゝの業音誦誦の
或をそらん連流と長初の一巻を
さうれと深き物にえれともか
その北水の流れをんを永く凡維の
冥胎を祈らそそくは祖法後仰く
あゝと

許旺

世乃や越前よ若れ芭蕉塔

松の子向もえれ 暎 竹市

下宮も若の相教を月如く 椋仙

みひわしめ今て山か 豊井

藤末もあねを是あて忌用物 脩竹

あさりの舟のつりてあふゆ 紫雲

いりさほも若も若月の十三夜 江白

ねほてあつらふささし 八景

送

坂

うねるかろ姫も宿のまほり
表甲

官供も管下けく
表乙

二三里のりち
湖南

うさんか宿も
表丙

そわを思ひあはるも
表丁

月夜も
文係

えと
波部

こころも
坂表

うさ月の歌を
表三

花の
松乙

彼も寺も
左表

曲れも
係南

大坂の
表丙

さうりくと
表丁

むら今雜の
表甲

よら
表乙

氣のすしよきねく 宿後の日影 水原 桐雨

降ねしちつとく 縁日北境 土原 友吉

鏡葉子ゆきしとく 意をあらん 徳本 豊年

ゆらとりつとく 花の空 全 文里

八幡の鳩りあきらてく くらへも 一歴伝

大工よ回くしりぬ 枝 百雅

昔供あさく 圃いもて 秀吉

腰よよむの 飯の 喰立 鬼柳

わしつゆら 元く 東く 西く 寸高

沈藤のるも 余はよ 市物

積葉子 福の 葉の 心 南枝

紙鴉子 内を 見せる 机車

本松よ ぬき さら 高野

かきり ちり ちり 巴凌

只る 中の 場を くら 月の手 柳 阿波

庭より 戸に 七 花 舞

又遠くも此所の地士の村ありけり
 さかたのちのちのちのちのちのち
 ねんもかたれくもあけり中核交
 八考の事一こくまよゆる
 青くけくかたの代の子鹿川
 思ふともくもくえのこく
 ろくの証も信春の場北む
 一考もくもくもくもくもくもく
 江白

あはれ

枇杷のむねや頓早よ 塚信春 桜伝
 世にあり指もうねり かつりむ 丸舞
 世の信も新やうんさん 初氷 雨部
 地火北その時や白北日 後子
 場よりあはれくも白や初一られ 当車
 舟柳よりあはれやみささあ 舞甲
 世にまくもくもくもくもくもくもく 甚友

有れ子や誼さし下塔供養
 火を燈と敷のし向やわな梅
 塔をさす勢も子向やあめ甲
 子向やあめ櫓よむれ清
 貴勢下さ敷も府く塔供養
 先一重塔れ子向や上れむ
 塔れ名下松を遠もやれあそ
 室をかく梅のかさくやさる塔
 湖南
 乙曉
 喜慶
 秋政
 乙松
 末古
 渡誠
 其江

ゆり雲白くしあや清れむ
 厚さ雪のし氷し思ふ清氷
 雪さや所の新高き塔供養
 關伽楠れあし氷もやあ松む
 こんくやくい氷しれ所の料理を
 長松れ供養し敷れ火新け
 清めたる根深もむしの子向か
 雪さ雨や雪もたれ松し子向
 石口
 御清
 上之
 一松
 左衛
 仙目
 松智
 波部

花香より八つ子も咲くと地信春 文信

花の影の赤流れ 地信春 花

山草むやまも 藤より草意地 松む

音のりも新やあふも 芭蕉地 巻三

秋し極くく松よりあふくやあふ月 藤江

木をむやまの新あふむ月あふり 美空

月音より新あふり 藤江 補作

草のむやまの白の物よりあふり 江白

信風やあふりあふりくあふりむ 尺草

春くの子白花流れあふりむ 高野

竹あふりあふりく小春の赤意地 秀翁

春を物より白の連やあふりむ 百雅

鏡香もあふりやあふり花意地 像蘭

世より花尾より花れむ 藤江 巴渡

芭蕉もあふり花意地やあふりあふり 西洲

春のあふりあふりくあふりあふりあふり 愚柳

借春の月や露のふもとのあつ心 寸三

大根引子よもつ草のらささ 露草

余のいさゝ新の子向やまのど 市野

水鏡のあつりや石のつとまをい 知人

山吹の月よ草のぬ 十二日 玉井

草のふよ草をなまむ 五原 桐雨

麦の雨のぬと子ゆく借春の 五原 夜香

あつ北江よ波のつとまをい 竹本 白草

あつ信のむや勝つとやあつ 左 文星

空の南やまのつとま 歴信

借春の月よ草はれとや地のつとま 松屋

中果よ草のつとま 信 岩井

草のむよ草の十のつとまのど 南枝

初春の月よ草の袖のつとま 楓車

えん名せくよ草のつとま 湖草

初春の月よ草のつとま 如月

床席を飾し〜やまのむ ね戸

室を飾り〜やまのむ 音之

通帳を〜やまのむ か年
伝む

舟に白ひ〜やまのむ 廿
まね

東北どの子向〜やまのむ 全
心程

おれの事〜やまのむ 文書

結い室の供養〜やまのむ 巴伝

お秋様〜やまのむ まね

床下地の供養〜やまのむ 廿四

月言北場〜やまのむ 喜柳

起くも〜やまのむ 雨雲

口切の事〜やまのむ 二揚

音海言や〜やまのむ 豊井

法今北育あ〜
碑前を清め〜

おかし〜やまのむ 竹市

諸少集韻

芭蕉云々

互は山方

されとこを仰ぐゆき日を初時面 北竹坊
 生波北名もあそぬ夜や居初月 若の
 初音や柳を仰ぐ梅を仰ぐ 可儀
 ぬりもかきお袖あり天の川 宇紅
 こか人北氣よ隈もあそ月見外 東原
 七柱や清酒もあそりの初仕 全山縣 東羽

初鳥よむちもはくく 分斗
 名月や垣のあそり あそり
 初音や竹杖心よからあそ 若麻
 一八たむや一さそ 守初
 初はくぬのあそり 守文
 秋の川やわさね 若丹
 腰あそり 若丹
 川骨やおも 二初

鳥毎にせれりてはの木は枝 鳥

徳のれと月七こりくすの流 こりくす

流しとや流しと白く帆のり 帆

流しと余はよりりくす 余

流しと物身鳴り 物身

流しとこれと音るや 音る

流しと加とと 加

流しと深と一刷毛初 一刷毛

月と明かりと イセ葉木

綿衣や何をも 綿衣

飛とけれと 飛

川とやと 川

流しと通ふ 通ふ

流しと 流し

山と 山

山と 山

今年七好まらぬちりり

あな坊

ゆきと細おみやさうたむ

南原

横六介伴

有るあつ子とを止まらぬちりり

長法

ふりたはくろもとらむとむけ

月千

相やとちやわねまのけけ

強臣

約かき

松ととりあふり弘深あめけ

松若

わのいしとぬらむらやめみ

まふ

用務

正ふをありくほもちけ

あふ

物と元と一日ぬれく雲を直け

計南

様の日や清品のあふりたあ川

む岡

全座

れあふりや猶北藤とあめ牡丹

琴音

かこらた元ととしりあのみ

伝法

川きよと物とけけとやさうと

荊口

出と織あふりやサ秋のあふり

斎路

長内

吹付た鹿の給とやあふり

深玄

深あふりふとあふり

あふ

平子之門是北別や田の鐘 厄朝

けあさりひく日暮や東海所 と云ふ方田 文三

望いさぶ大根かしく初さく 曼川

初正信七望北ありや放生會 高所

初もちさむらさぶねん北か 吾色

初めやふくれさる北さめさく 望梅

初ささいほくこせささきおま 石水

深く初あめりさくこく初あま 魚尾

あくさふねを眺く指さるふ 口交

お二さの袖さくさあをみねけ 湖河

おらあおさあい付る北さあふ 肥後松平 千藤

りあも又ふくれの吹海やふいを海 保柳

らむれお信さあふ、初北さ 高所

ささあやわさああ初北竹松 高所

初佛さや座あさあさあああふ と云ふ 千藤

さああさあああああああああ と云ふ 高所

ゆくぬりや蛙七款いふあぬれ 梅田

さみしきや九輪七塔り雲の甲 蜂屋

梅り香をよ浦堂子ゆく火池い 杏仙

あれ嘆や猫のさき藤子まなれ世 文心

一匹れのゆきそとやうま田家 雨月

淋しき秋やうらめく 娘初音 芳香

あまや北清よの無きおのど 古心

あしきく代名を物さふね定い ねね

あまにやまぐさあぬ田加さるる 梅林

あんなあやまあさあお好の吉 一葉

あま初音の七話一 藤七音 乙語

石切北鉄や稚子れ音むふん 玄草

あつれつらく申うらむ蛙うか 千流

あめさくしあまをさるけり音け 可修

あま風をいれりや蝶七古用う 里菜

あま道さるえやららく加つうむ 芳香

梅初る 桜葉や 梅のよ 見し 肥後 甚昂

卯のよ やさしく か けり けり の けり の けり

初音や いと か ぬいり け けり 松 起

初秋を 我り の ぬれ け ぬれ の ぬれ

晩鐘 け ぬれ け ぬれ の ぬれ の ぬれ

けり の ぬれ の ぬれ の ぬれ の ぬれ

と ぬ ぬれ の ぬれ の ぬれ の ぬれ

若 ぬ ぬれ の ぬれ の ぬれ の ぬれ

後の 糸 ぬ ぬれ の ぬれ の ぬれ の ぬれ

清 ぬ ぬれ の ぬれ の ぬれ の ぬれ

春 ぬ ぬれ の ぬれ の ぬれ の ぬれ

城 ぬ ぬれ の ぬれ の ぬれ の ぬれ

三 ぬ ぬれ の ぬれ の ぬれ の ぬれ

一 ぬ ぬれ の ぬれ の ぬれ の ぬれ

あ ぬ ぬれ の ぬれ の ぬれ の ぬれ

ふ ぬ ぬれ の ぬれ の ぬれ の ぬれ

肥後

左後

全本

ねむるに 附るに 柳の 眠りくる あはれ 以て

中

芭蕉 湯谷のくさき 休庵の 附る

誰斗 田舎のくさき 休庵の 附る

しるの ねむるに 附るに 柳の 眠りくる 休庵 自注

ねむるに 附るに 柳の 眠りくる 休庵 百曲

あはれ ねむるに 附るに 柳の 眠りくる 休庵 鼓凡

ねむるに 附るに 柳の 眠りくる 休庵 秋巴

まふさ ねむるに 附るに 柳の 眠りくる 休庵 如何

ねむるに 附るに 柳の 眠りくる 休庵 吹柳

ねむるに 附るに 柳の 眠りくる 休庵 南畝

ねむるに 附るに 柳の 眠りくる 休庵 子羽

ねむるに 附るに 柳の 眠りくる 休庵 故亭

ねむるに 附るに 柳の 眠りくる 休庵 性文

ねむるに 附るに 柳の 眠りくる 休庵 吉邑

ねむるに 附るに 柳の 眠りくる 休庵 白鹿

新後ろの竹市推と

新後ろ松竹の一角をこめく

花を青く遠きより一歩

りれと我りや一歩を推く

徳化をあめく

新後ろ

水より川や常盤のこころは深

無草

松竹青のこころはやさしのこ

無花

家あつと回るや松竹をかくみ

無屋

うはとよの徳のこころは月のみ

三日月

今昔く世々もわかれ

無子

松も又あられや青の山新

無山

高きもやふくよちおる松の徳

無松

初音や柳の枝いとわかくも

無柳

春風かく狂はるれぬ

無風

飯床しく花をかくさる

無飯

春風かく狂はるれぬ

無春

春風かく狂はるれぬ

無春

りよのくもれありとぞ知し梅の玉 春鏡

能くもいんよとせくさくさくさく 但生花 空書

折るるもくくぬりけし時夏 百枝

迎席いさくさくありと能く 昌昌

初書れむとふや 竹の奥 柳驢

け春や能く無りくもれ梅 也者

因や海とふとくわく おと 幽む

素心の餅と能く調ふと 不隨

雲さくくや三里けさく物 袴伝

こかしや 橋下那路 宅血

雲白くふくれの中とさく 能梅

故るを古ありとめく代や 史孝

又白く流くや 空松

一し 空松

ね 凡汝

秋のねれり 張音

茶 湯おとろくもゆるりしむ 茶井 決行入

回 一敷遠よりく月入ふ 年路

足 ちかきとらとありあき 卯文

き ぬきもふ床ゆる年入 文京

一 ころよ夕日のゆるく 教を

庭 へいけのゆるゆる 青物

ま ねを又あきらむ おの

菊の香や 年路

初 月とらあく 右外

ふらふら 歌者

ちる 凡切

清 休交

吹 田内

一 巨術

ね 宮工

卯 意川

凡れあるはあけあけ一もふ
夜林

若も七折もあけし一折葉付
夜月

夜一の戸もさそへぬのほね松
田二

水伝やとより七葉の次いり松
文鳥

福書れむさくあけや秋の風
杜川

家一つあそふそあけ
馬屋

それもさくさくあけを梅のむ
中野

巾のむや地ふぬれ北風あけ
茶江

あけぬも能く能くあけの松
桂南

あけつ子石柳子あけつ松
里村

夜一の北風さそあけつ松
文鳥

あけつ子さゆしと松一松
左河

あけつ子さゆしと松一松
石松

あけつ子さゆしと松一松
来己

あけつ子さゆしと松一松
田奴

あけつ子さゆしと松一松
冠主

あけつ子さゆしと松一松

見よくも鳴く回ありて雲を催し 全芝

肥くも葉おかしきさくさく 鏡行

白菊北後のさきや十三夜 宮上太深山 露宮

宮上川やあまやちふさ菊の露 左林海 志喜守

菊の露北あきさき 羽切の露 三羽竹 凡竹

約未北あきさき 雲霧の露 露氷

紙衣もしつ月とせき 紙衣 主景

空をあらふ入北外や菊の露 集書

むらさきさき ころもん 春の雨 杜若

あきさき 目と あきさき あきさき 望遠

秋のさび研 あきさき あきさき あきさき あきさき

あきさき あきさき あきさき あきさき あきさき

あきさき あきさき あきさき あきさき あきさき

あきさき あきさき あきさき あきさき あきさき

あきさき あきさき あきさき あきさき あきさき

あきさき あきさき あきさき あきさき あきさき

系ゆふや物の道くさ 峠北上 斗隆
一ふれむるさあしりては 佐渡川 地環

川うきぬれあかりやむい川本 史心

友よかゝる証ふみもや供養の日 新河

春入よ柳ふれぬの舞りし 貞和

うけくき心やふれあふ柳 文中

里北名の森もともかき 張附 景竹

さかあか 加る蓮池よりともかき 新枝

庭下北か孫さくあまき 満胤 似桂

栞りりく後七受北竹 林 白正

花よりて地北ふくや松の葉 越後吉田 栞至

入ねる空し 十日北七島 圭史

凡中一被 亦れいれり 其邑

昔北あふさる 彦やふさく 糸巻

松もあふさる やもれ雨 宮室

水もれ北 浅瀬をる 柳 栞色

山崎一とあかりと一雪の雪 全小方 東凡

夏夜を待つに空ふくや門下涼 可涼

雨凡も念息にどや百日後 里交

夏暮れ色くや月れ加る時 藤原

日暮る日れ山れ通るよ如月ころ 春水

夢重なるあかりに夜や波の音 全坊の内 長岡

夢心知るあかりと音れ月草の 小方

春雨や福さめると又 福り 曾凡

初秋やあつとふるねぬ空の色 如水

晴晴れ清く空のむとささ る哉

みしうねやあつと波のつたの月 全浦佐 山市

どの星も月も空の空や雲の川 観月

能く甲に細境やあれれと 可好

梧引に様も移るや影月 夏澄

と初秋れ子あつとつと一と 全六日市 梅枝

卯のどや月も地れれ行り 好詞

合別もつぬさくらや暮るる 柳知

あ草平にむも梅あてあとの袖 起碑

泉一なるきぬてしきよよふさく 全そる 初柱

あつとさふ心わりのみだり乃む 水耳

柳とゆへ又二つ三つ橋うか 柳市

あつけるささきの場よりや春の庭 乙秋

あ月二雨やふもあつるあつるこへ 紫巾

あ北きやあ竹うとく年かへけ 可園

涼風やあふ柳うもあがり合 起石

あち一舟のあつりや 衣又 志心

清のあつりくよあつるあつるあつる 播磨

あ生のこころやあふあつるあつる 文隆

あ遠征と柳れ一あつるあつるあつる 菊伝

あつるあつるあつるあつるあつる 全中つ 竹曲

あつるあつるあつるあつるあつる 全中つ 進石

あつるあつるあつるあつるあつる 喜保

初春や水ささき川はさ 雲十

那百合や切山治北高きく 巴河

藤花もあはしらやあつと 山々

のう移るねや庭竹よりくも 柳白

七夕やあれを乾北ふもさ 杜南

子休庭もあつとくさくさ 石山

復物北ふ船子園の杜舟は 全五板 去る

月移りよどの月也あつと 栞伝

茶ふとや縁の本を吹くお園 栞郎

年たぬや月北さめつ時ろくさ 鼓民

山ちりのあつとあつと月 千紫

三線もあつとあつと月 左月

あつと人を用ゝあつとあつと 全五板 机と

ぶのあ林もあつとあつとあつと 文に

聴方むれ下地うあつとあつと 南文

あつとあつとあつとあつと 同平

白雲よりの名をゆくる柳し 柳し

晴のふかうけとやあつと三 二考全の末とて

意ふりも星よ藤籠と藤の多 一方

ちくくと柳りともう一 其の音 細紙

くくうちよるをよとる田植全地巻 一風

くくくくもあつちじくく柳か 香湯

空よりとあふむく枝やあつと 樹か

响千里やあ并よ川むと全巻 杜河

柚花どの物も一ゆとふひけ 孤山

山力もやあちとちうく柳の音 海人

空やたのまは柳花里よ 南水

空よりと流れたとちとあつと 千丈

葉花流もそのまはと流るるあつと 風文

空やあつとあつとあつとあつと 柳列

空あつと心とみやあつとあつと 白鳥

川音やあつとあつとあつとあつと 秋樹

清くもくもくもあらしし雪の上
所好

かきりやむ川しんがのり
里井

深月北色子海ふや夜あし
北丘

秋子ゆふゆふゆふゆふゆふ
牧牛

鳥音北流川くわむゆふゆふ
可収

所菊やゆふゆふゆふゆふゆふ
不朽

七夕や毎節宵北月あかり
鶯水

物し海く月七空さや塚の上
此夕

波りくきまねと又産後水
清原

穂高れけけけけけけけけけけ
没古

志高るもく一雨も夢交百日後
柳川

音高れれむと嘆くや 三羽塔
里白

吾親や毎節人よりくさすれ
里宮

夏草より凡そこもせく夕涼
加口

橋や立寄れ袖北一重も
茂折

伴や塚よりあらしと折尾む
志島

新取やまのふらり又むの取 好易
 女取入北差ふらりやふらり家 芦江
 吉木北監監ふらりむやふらり城 全形詩 杜明
 阿らひんふらりむや城供養 芳河
 阿らひんや城ふらりけり關伽の取 枝風
 月音北差ふらり阿らひん城供養 梨部
 北折ふらり菊も阿らひん城供養 菊菊
 指ふらり城の供養やふらりむ 友梨

花を煮ふらりむのふらりふらりて折ふ 菊於
 一程のふらりむも阿らひん城供養 廣岩
 氣うらむと城北供養や阿らひん月 百也
 常月も阿らひんむや城供養 有反
 枝らひん城北ふらりやふらりむ 喜淵
 菊の後 北ふらり阿らひん石鼓の取 取研
 空や城地や阿らひん阿らひん城供養 山州
 阿らひんや阿らひん給養を阿らひん阿らひん 一掌
全古詩

夕歌北也や小家の外もふゆ 竹推

あめ斗北度めく陸や表のいよ 左五泉 歌後

おれふおろし一本権や垣隣 倉紅

涼風やあかあかあかあか 左五泉 宣阿

七夕やほいぬぬ 左五泉 巻八

おろし 左五泉 巻八

谷月やあ 左五泉 巻八

あ 左五泉 巻八

里わろ 左五泉 巻八

初 左五泉 巻八

あ 左五泉 巻八

初 左五泉 巻八

梅 左五泉 巻八

雛 左五泉 巻八

八 左五泉 巻八

あ 左五泉 巻八

夕歌北也や小家の外もふゆ 竹推

あめ斗北度めく陸や表のいよ 左五泉 歌後

おれふおろし一本権や垣隣 倉紅

涼風やあかあかあかあか 左五泉 宣阿

七夕やほいぬぬ 左五泉 巻八

おろし 左五泉 巻八

谷月やあ 左五泉 巻八

あ 左五泉 巻八

里わろ 左五泉 巻八

初 左五泉 巻八

あ 左五泉 巻八

初 左五泉 巻八

梅 左五泉 巻八

雛 左五泉 巻八

八 左五泉 巻八

あ 左五泉 巻八

流し流る 杉糸や月よりりりり 楓

あさめしむ葉いゆかき 鶴 楓

能く山北いりりりあまて雲の影 楓

晴れ北雨も流るく風北を 文

鳴んく入ね涼く 楓の下 楓

ちりりり指あしあふ月白く 楓

七夕や星の心の中加し小袖 楓

かぢりりり葉かきあふ北けりりり 楓

川あけく流るる流る 柳 楓

葉のどやいさふ小葉の好いさ 楓

むの時訓保北ふや初紅葉 楓

古々をかりふ流る葉や小ね流 楓

ゆきめり梅北白心く葉りりり 楓

ほいけり梅の喜や初くれ 楓

凡つゆぬあやりりり 楓

ゆきりりりあやりりり 楓

晴ま〜ぬ室よらけりて折し 全割時 瓦登

深紙を日影の幕よどむるか 全 且る

傘で戸をきくかき 全 板の音 仙角

橋板をふくむ山路のさくし 全加 竹葉

きくし折しきくしや松の庭 全 放針

夕顔や壁しとあく三井の傍 全 おろ

下流や石よれ折をぬたもこ 全白根 松葉

草折やふち折を余心 全 竹葉

ちぬ北柳やちりて影の結 全ち 花登

内袖よたし折あき揃きふか 全 半山

ふんほねをぬくくか 全 水龍

花日折をぬく向やちりぬ葉 全 文先

月もすし雨もは信よる存の月 全 回廊

とせ紙よるか袖を三千才よぬ 全 山亭

ゆき折し向ふ世日のなぬふられ 全 知遠

花よ折よるかたを汲し其也り 全 南窓

拓ちう屋むや月を拓く者 正一

たの地子月や露ね子をまこく 小泉

をせ成るもやまも七波ちくぬものた 東原

一二幅 拓七糸口を切りてむ 坂牛

拓ちつ交やまられそねもま切つ 江戸島

月影の外と雲をんや夕涼み 新井

海くまく物るらぬちちを椿汁 在之

ま〜むのちちの本下よるまゝか 在之

そむとらうく行進しよこ〜く 拓ちん 田原

芝原や枝川の糸を 切り〜 吹 巨匠

サ敷入や背あ〜い〜も 藤吉 林

芭蕉もよもやあ〜も〜 那の杖 二明

堀か〜〜ぬり〜 後ふ 氷室 在柳

中宿もよも〜 ぬれ〜 行進 忠雄

鳴〜〜り 蒼苔〜 梅のぼ〜 けい 好觸

〜〜 拓やむ〜 福〜 深あ〜 好觸

清くめぐる 秋をこぼ送る 葉の影 古松

涼しさのせいで 枝をさすのむ 河草

葉で摘む 草や露のちるより 一晩

空くぬ 空より 柳と花と 里休

夕きや 夕きり 柳と 柳と 竹又

門とくよ 夏 摘りのあつた 里泉

水 流れ せよ 乱れ 柳と 柳と 柳と

夕きや 夕きり 柳と 柳と 柳と 柳と

板橋よ 雲のたはく 柳と 柳と 柳と

柳と 柳と 柳と 柳と 柳と 柳と

柳と 柳と 柳と 柳と 柳と 柳と

柳と 柳と 柳と 柳と 柳と 柳と

柳と 柳と 柳と 柳と 柳と 柳と

柳と 柳と 柳と 柳と 柳と 柳と

柳と 柳と 柳と 柳と 柳と 柳と

柳と 柳と 柳と 柳と 柳と 柳と

松子やまぐさ振袖のむらさき 全作 三十八

川枯やあまの柿のこぼれ 二松

清らもの中へ氣味よきお敷 北南

ねねいさな子 燈もやあつり 全加治 中松

あまこもあまふゆれとやね 川柳

二七ねをさしちむらさきの月 雄可

三日月のあけけし 全三河 松柳 三河

ふとあまのふとあまのふと 二松

斗あつぬものもなつを市の蠅 千八

川枯やあつり七赤の越ね 全各地 七河

陰るものむあねもあつり 全各地 二

白鷺もあつり 全各地 二

川あも麻子 全各地 二

う川くあま 全各地 二

あまれを 全各地 二

あまれ子 全各地 二

石をふんや切てあまのりのおもひ 空村上 可紅

襦袢や席子もはらうとら回乃 波澗

起しう移てまねあまも水鏡は 初休

茶子所北有子切けりや神所と 松葉

法利やう味あまれりる柚味暗は 有隣

秋風や月とく遠く相の枝 望河

栴込をうれれにあらぬの字は 里福

おろけをねと進進ふくれうか 綿門

尾をんせぬ鶴の体や流れ星 赤心

新雪子起とられりやふ鶴 初本

進加

羽引内田

うきくとる草子やう一春の音 白風

涼風やぬらうとて夏は草 吹凡

川舟とるさる外や角刀好 南星

俊節と内あまうか細きうか 法水

舟もや田一漣れを控ひから 赤南

あつとくしん 淋ん 秋を 廉の多 あつとくしん 和年
とくしん 淋ん 秋を 廉の多 里松

宝曆六子歳十月中旬

京寺町二条

橋本治彦



